

高松市内遺跡発掘調査概報

— 令和3年度国庫補助事業 —

2022年3月

高松市教育委員会

例 言

- 1 本書は、高松市教育委員会が令和3年度（一部、令和2年度も含む）に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調査事業の概要報告書である。
- 2 本書には国庫補助事業のうち、高松市内遺跡発掘調査事業として令和2年12月から令和3年11月にかけて実施した試掘調査及び内容確認調査について収録した。なお、令和3年12月以降の実施分については、次年度に報告する予定である。
- 3 調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員 高上 拓・香川 将慶・梶原 慎司・品川 愛・佐藤 容、同会計年度任用職員 中西 克也・上原 ふみ・森原 奈々・磯崎 福子が担当した。
- 4 本書の執筆は、高上・香川・梶原・品川・佐藤・森原が行い、編集は磯崎が担当した。
- 5 本書の挿図として、高松市都市計画図2千5百分の1を5千分の1、又は3千分の1に改変して使用した（調査位置図内の網かけは、調査対象地を示し、色の薄い部分は埋蔵文化財包蔵地を示す）。
- 6 本書のうち標高値を示したものは海拔高を表し、座標は国土座標IV系（世界測地系）に換った。
- 7 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

目 次

第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和2年12月～令和3年11月）	1
1. 佐藤城跡	1
2. 木太町小原地区	1
3. 条里跡	2
4. 上林町本村地区	2
5. 平石上4号墳・三谷町平石上地区	3
6. 奥ノ池遺跡	5
7. 飯田町東青木地区	5
8. 拝師庵寺・上林町本村地区	6
9. 太田下町須川地区	6
10. 条里跡	7
11. 多肥上町平塚・本村地区	7
12. 条里跡	8
13. 太田城跡	8
14. 多肥庵寺・多肥上町北原地区	9
15. 条里跡	11
16. 中塚遺跡・西植田町中塚地区	11
17. 太田下町中下所地区	12
18. 新田町本村地区	13
19. 飯田町東青木地区	13
20. 多肥下町平塚地区	14
21. 牟礼町岡地区	14
22. 六条町六条下所地区	16
23. 香南町横井地区	16
24. 条里跡	17
25. 条里跡	17
26. 中森遺跡・樅紙町中森地区	17
27. 伏石町巖紋洞地区	18
28. 池の内遺跡I・多肥上町日暮地区	18
29. 多肥上町前邸地区	18
30. 多肥上町南原地区	19
31. 川島東町郷地区	19
32. 条里跡	20
33. 条里跡	20
第2章 重要遺跡確認調査（令和2年12月～令和3年11月）	21
34. 史跡讃岐国分尼寺跡	21
35. 勝賀城跡	23
36. 特別史跡讃岐国分寺跡	24



第1図 調査地位置図

第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和2年12月～令和3年11月）

1. 佐藤城跡

- 1 所 在 地 高松市鬼無町
- 2 調 査 期 間 令和2年12月2日～12月3日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓・品川 爽
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「佐藤城跡」内に位置する。

対象地内に9本のトレンチを設定し調査を行った。対象地の基本層序は、表土、灰色粗粒砂層(Ⅰ層)、黒色シルト～粗粒砂層(Ⅱ層)、黄橙色シルト～細粒砂層(Ⅲ層)、灰色細粒砂～中粒砂(Ⅳ層)、マンガン混じり黄橙色シルト層(Ⅴ層)、灰色砂礫層(Ⅵ層・地山)である。このうち、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅴ層の上面で遺構が確認された。(以下、Ⅱ層上面を第1遺構面、Ⅲ層上面を第2遺構面、Ⅴ層上面を第3遺構面とする。)

第1遺構面では時期不明の土坑、溝、第2遺構面では、ビット、土坑等の多数の遺構を確認した。第2遺構面の遺構からは弥生土器、中世の土器が出土しており、弥生時代と中世の遺構面と考えられる。第3遺構面ではビットを検出した。遺物は出土していないが、第2遺構面が弥生時代の遺構面であることから、弥生時代以前の遺構面と考えられる。

6まとめ

対象地における埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。開発に先立ち、令和3年1月6日～1月28日に発掘調査を実施し、工事と並行して令和2年12月22日～令和3年4月30日に工事立会を行った。発掘調査及び工事立会の成果は「高松市埋蔵文化財調査報告第224集 佐藤城跡」として刊行した。(品川)

2. 木太町小原地区

- 1 所 在 地 高松市木太町
- 2 調 査 期 間 令和2年12月9日
- 3 調 査 担 当 者 梶原 慎司
- 4 調 査 の 原 因 木太鬼無線建設工事
- 5 調 査 の 概 要

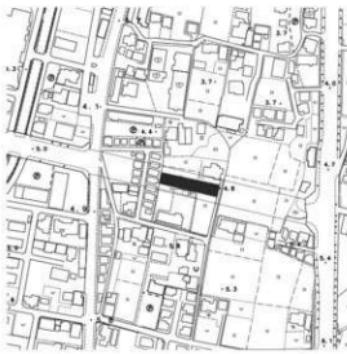
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「木太小原遺跡」に隣接する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.2mの深さで灰白色シルト層の地山が認められた。地山上面で、中世以前の遺構・遺物は認められなかった。

6まとめ

当該地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第2図 調査位置図(1/5,000)



第3図 調査位置図(1/5,000)

3. 条里跡

- 1 所 在 地 高松市香南町横井
- 2 調 査 期 間 令和2年12月14日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶
- 4 調 査 の 原 因 戸建住宅建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。事業者から依頼を受け、確認調査を実施した。確認調査はトレンチを1ヶ所設定した。現地表面から1.1mまで花崗土による造成がされ、その下面に遺構面となる黄橙色シルト層を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。

6まとめ

埋蔵文化財包蔵地内であるが、遺構・遺物は認められなかった。しかし、本調査地は平成31年4月にも確認調査を実施し、その際は溝等の遺構を確認していることから、今後新たに開発工事を実施する際は適切な保護措置が必要である。(香川)



第4図 調査位置図(1/5,000)

4. 上林町本村地区

- 1 所 在 地 高松市上林町
- 2 調 査 期 間 令和2年12月17日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 住宅建築工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「上林本村遺跡」に隣接する。事業者から調査の依頼を受け、試掘調査を実施した。

調査に当たっては3本のトレンチを設定した。いずれも耕作土・造成土の下面からは風化した砂岩円礫を密に含む砂礫層が厚く検出されたが、遺構は確認できなかった。耕作土・床土中から摩耗した少量の土器片が出土した。

6まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第5図 調査位置図(1/5,000)

ひらいしきみ 4 ごうふん みたにちょうひらいしきみちく 5. 平石上4号墳・三谷町平石上地区

1 所 在 地 高松市三谷町

2 調 査 期 間 令和2年12月24日～12月25日

3 調 査 担 当 者 高上 拓

4 調 査 の 原 因 造成工事

5 調 査 の 概 要

周知の埋蔵文化財包蔵地「平石上4号墳」を含む範囲で事業が企画され、事業者からの依頼を受け、調査を実施した。対象地は日山東麓の傾斜地に当たり、現在は竹林が広がる。平石上4号墳は、かつての分布調査で低平な墳丘と安山岩の散布を根拠に古墳と判断されている（高松市教育委員会 2007¹¹ 平石上2号墳 石舟池古墳群）。調査の着手前に現地を踏査したところ、現在埋蔵文化財包蔵地として周知されている範囲には明確なマウンドや遺物の散布が確認されず、やや東方に離れた地点に小さなマウンド状の起伏が2か所確認された。このため、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲に加え、この近在のマウンドも調査対象として試掘・確認調査を実施した。

地点の呼称に当たっては、北西のマウンドをマウンド①、北東のマウンドをマウンド②と呼称する。マウンド①には1トレンチ、マウンド②には2トレンチを配置した。また、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲には3トレンチを配置した。

1トレンチでは、マウンド①が人為的な盛土によるものか、自然地形かの判断を主眼として掘削を行った。結果として、複数単位に区分できる地山起源の土砂が、地形の傾斜に反して水平基調に堆積することを確認した。遺物は確認できなかつたため、時期は不明であるが、人為的な盛土の可能性を想定することが可能である。

2トレンチでは、マウンド②の上面の確認を行った。結果として、

マウンドの上面はかなり水平で、土師質の耳付蔵骨器、凝灰岩の井戸杵？転用区画施設が確認された。蔵骨器内には火消壺蓋が転落しており、詳細な時期比定は困難であるが近世以降の資料である。これらの状況から、マウンド②の上面は近世以降の墓が形成されており、それに伴って一定の地形変更があったものと考えられる。一方、2トレンチの南西側傾斜地において長径1m前後の大型石材（日山産の凝灰岩か）が集中する箇所を検出した。以下石組と呼称する。この石組は一部地中に埋没しているが、法量がある程度揃っていること、水平面のレベルがほぼ同一の石材が並ぶことや、直線的に石が並ぶ点等から、人為的な石組の可能性が高い。石組みの隙間からは近現代の廃棄物が多量に認められるが、遺構の形成年代を特定できる遺物は無い。また、1箇所石材の下部を断割りしたところ、その地点では地山と石材の間に旧表土を間層として挟むため、二次的な設置状況の可能性が高い。こうした状況から、本来の石組みの構造は不明瞭とせざるを得ないが、横穴式石室の構成材が二次的に移動された状態である可能性も想定できる。このとき、マウンド②からは6世紀末～7世紀初頭と考えられる須恵器斐片が2片表採されている点が示唆的である。上で確認したように、近世以降の墓が形成されるにあたってマウンド②はある程度の変更が想定されるが、こうした変更により二次的に移動した石室の可能性も否定できない。

3トレンチでは、廃棄物を含む表土下で地山を確認しており、遺構・遺物ともに確認できなかった。

以上をまとめると、マウンド①・②では時期・契機ともに不明ながら人為的な盛土の施工、古墳時代遺物の散布、横穴式石室の構成材の可能性も含む石組みを確認している。いずれも相互に直接的な関連は見いだせていないが、広く見れば古墳建築以後の履歴を有す地点であるという評価は動かない。一方、平石上4号墳として周知している範囲には埋蔵文化財が確認できなかった。このため、マウンド①・②を中心にして、地形変化点を含み込んだ範囲を埋蔵文化財包蔵地の範囲とし、平石上4号墳の範囲変更が必要であると考えられる。

6 ま と め

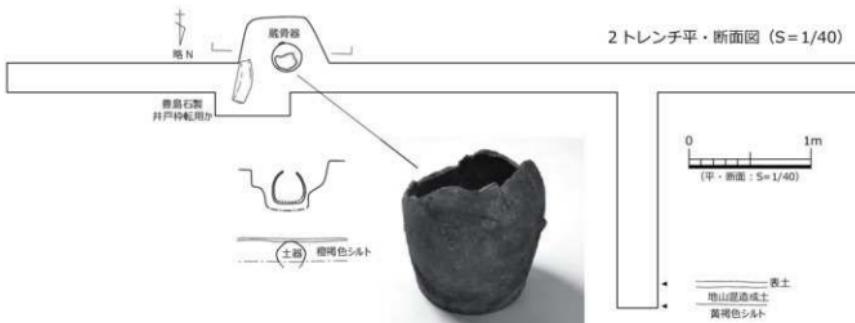
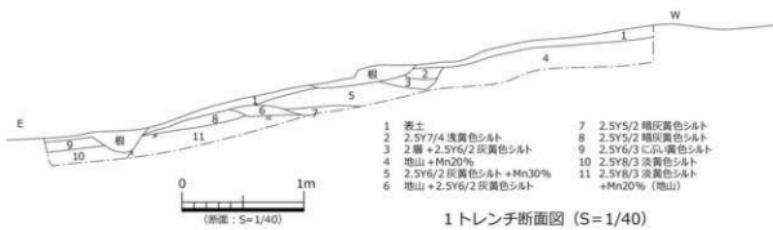
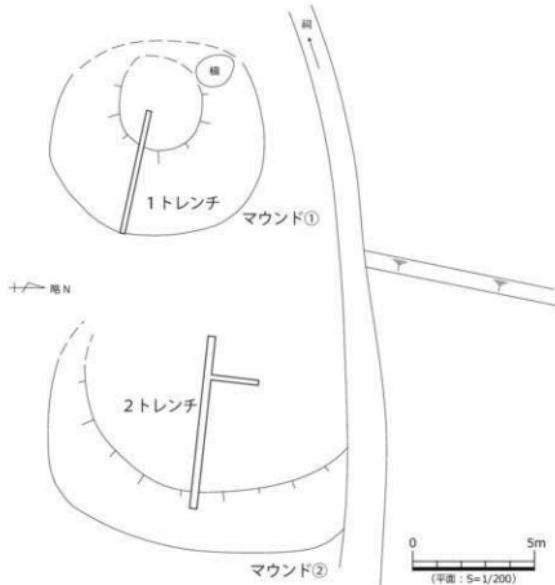
上記の範囲は埋蔵文化財包蔵地として適切な保護措置が必要である。名称は「平石上4号墳」とし、範囲変更が必要である。（高上）



第6図 調査位置図 (1/5,000)



写真1 石組写真



第7図 レンチ平・断面図 (1/200, 1/40)

おくのいけいせき 6. 奥ノ池遺跡

- 1 所 在 地 高松市室新町
- 2 調 査 期 間 令和3年2月18日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶・佐藤 容
- 4 調 査 の 原 因 奥の池施設改修工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「奥ノ池遺跡」内に位置している。事業者より依頼を受け、確認調査を実施した。

調査は2本のトレンチを設定した。基本土層は表土以下に岩石や礫を含む明褐色粗砂～極細砂の地山層を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。

6 まとめ

埋蔵文化財包蔵地内であるが、遺構・遺物を確認できなかった。
(香川)

西 東 日 朝



第8図 調査位置図(1/5,000)

いいだちょうひがしあおきちく 7. 飯田町東青木地区

- 1 所 在 地 高松市飯田町
- 2 調 査 期 間 令和3年2月18日～2月22日
- 3 調 査 担 当 者 品川 愛・磯崎 福子
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「青木5号塚」に隣接する。対象地内に9本のトレンチを設定し調査を実施した。その結果、地表下約30cmの地点の明黄褐色シルト層において溝等の遺構が疎に検出された。遺構からは土器片が1、2点出土したが、小片であったため遺構の時期は不明である。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第9図 調査位置図(1/5,000)

8. 拝師廃寺・上林町本村地区

- 1 所 在 地 高松市上林町
- 2 調査期間 令和3年3月9日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「拜師廃寺」とその隣接地に該当する。対象地内に4本のトレンチを設定し調査を実施した。

対象地の基本層序はI層(甘土・床土)、II層(灰色砂層)、III層(黄色・灰白色シルト層)、IV層(礫混じり黄色シルト層)であり、土質やレベルから、III層上面は平成21年調査地点(高松市教育委員会編2010『拜師廃寺』)の第I遺構面、IV層上面は第3遺構面に相当すると考えられる。調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地「拜師廃寺」内ではIII層で古代の土坑、包蔵地外ではIII層で古代の土坑、性格不明遺構を検出した。

6まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「拜師廃寺」として追加登録した。(品川)



第10図 調査位置図(1/5,000)

9. 太田下町須川地区

- 1 所 在 地 高松市太田下町
- 2 調査期間 令和3年3月10日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 マンション建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田下・須川跡」に隣接する。調査では、4本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.2mの深さで黒褐色シルト層の地山が認められた。調査対象地の西側において、地上面で溝状遺構を検出した。遺構内からは弥生土器片が出土したため、弥生時代の遺構と考えられる。調査対象地の東側では自然流路の遺構を確認した。

6まとめ

対象地の西側で埋蔵文化財の包蔵状況を確認したため、対象地の西側を周知の埋蔵文化財包蔵地「太田下・須川跡」として追加登録した。事業者と協議を行い、マンション建設工事に伴い発掘調査を実施した。(梶原)



第11図 調査位置図(1/5,000)

じょうりあと 10. 条里跡

- 1 所 在 地 高松市香南町由佐
- 2 調 査 期 間 令和3年3月11日
- 3 調 査 担 当 者 佐藤 容・上原 ふみ
- 4 調 査 の 原 因 事務所・駐車場建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、3本のトレンチを設定した。1トレンチでは細い筋状の溝が見られたが、床土直下から検出されたため、時期は近世以降のものと考えられる。遺物は須恵器の片が出土した。

6まとめ

埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、中世以前の遺構・遺物は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。
(佐藤)



第12図 調査位置図 (1/5,000)

たひかみまちひらつか ほんむらちく 11. 多肥上町平塚・本村地区

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
- 2 調 査 期 間 令和3年3月15日～3月18日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 朝日町仏生山線道路改良工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業対象地が広大なため、試掘調査を実施した。基本的な土層堆積は、現水田面下に中世～近世と考えられる水田が1～3面あり、その下は砂礫層となる。砂礫層は大局的に南側から北側に向かって緩やかに下がっている。土器の小片が数点出土したが、遺構は確認することはできなかった。

6まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第13図 調査位置図 (1/5,000)

じょうりあと 12. 条里跡

- 1 所 在 地 高松市香南町由佐
- 2 調 査 期 間 令和3年3月19日
- 3 調 査 担 当 者 佐藤 容
- 4 調 査 の 原 因 進入路・駐車場建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、2本のトレーナーを設定したが、いずれも疊や近代以降のごみが混じった擾乱が地山まで達しており、遺構・遺物は検出されなかった。

6まとめ

埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、遺構・遺物は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(佐藤)



第14図 調査位置図 (1/5,000)

おおたじょうあと 13. 太田城跡

- 1 所 在 地 高松市太田上町
- 2 調 査 期 間 令和3年4月19日
- 3 調 査 担 当 者 佐藤 容・中西 克也
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

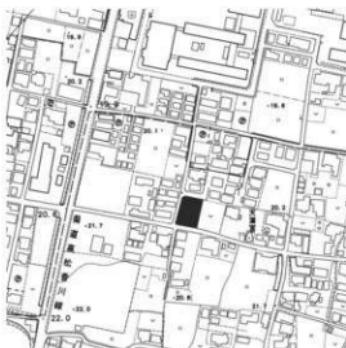
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田城跡」内に位置する。トレーナーは北と南に2本設定した。調査地は太田城跡の南西端に当たり、調査区の西端には城の堀があると想定されたため、北側のトレーナーは西端に設定した。

基本層序は表土と床土(旧耕作土)の下に 明褐色極細砂層(1層)が順に堆積している。地表面より40cm程の深さから疊が混じり始めたため、1層は自然堆積層(地山)と考えられる。遺構・遺物はこの1層の上面で確認された。

調査区全域で中世～近世のピットと土坑を、また北側の西端に設定したトレーナーでは、南北に延びる溝と不明遺構を検出した。溝と不明遺構は太田城跡の西端に位置し、太田城の堀に伴うものと推測される。遺物は土師器片・金属片・陶磁器が出土したが、溝からは遺物が出土していない。

6まとめ

当該地における埋蔵文化財の包蔵状況が確認された。事業者と協議の後、宅地造成工事に伴い発掘調査を実施した。成果は「高松市埋蔵文化財調査報告第227集 太田城跡」として刊行した。(佐藤)



第15図 調査位置図 (1/5,000)

14. 多肥廃寺・多肥上町北原地区

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
2 調 査 期 間 令和3年4月 20日～4月 23日
3 調 査 担 当 者 香川 将慶・中西 克也
4 調 査 の 原 因 個人住宅造成工事及び(仮称)ことで
ん多肥新駅整備事業

5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥廃寺」内に位置するとともに、同包蔵地に隣接している。事業者より依頼を受け、確認・試掘調査を実施した。

今回の確認・試掘調査ではトレンチを計10本設定した。土層堆積は基本的に表土(1層)、灰黄褐色～浅黄褐色の床土(2層)が堆積し、10トレンチでは灰白色層(3層)、褐灰色層(4層)が堆積している。遺構面はこれらの堆積層の下面から検出でき、現地表面から約30～40cmで確認できる。遺構面を形成する土質は1トレンチを参照すると暗褐色極細砂である。

検出した遺構は推定のものを含めると竪穴建物14棟、溝2条、土坑8基、ピット22基である。遺構の特徴を記すと1トレンチのSP1は直径約40cmで深さ約20cmである。埋土は黒褐色細砂で土師器が出土した。時期は古代と考えられる。他のトレンチでも古代と考えられる時期の遺構は黒褐色から黒色(灰黄褐色層等が混ざる場合もある)で埋没していると考えられる。SP3は直径約20cmで深さ約25cmである。埋土は灰黄褐色細砂である。遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、多肥北原西遺跡(香川県教委2015)の調査状況を加味すると中世から近世と推測され、他のトレンチでも同様の埋土の遺構は中世から近世と推測される。

3トレンチ含め10トレンチまで確認した竪穴建物の時期は古代と考えられる。しかし、切り合い関係が著しく時期差が考えられ、遺構の掘削が限定的であり確証はないが出土遺物等から古墳時代に遡る可能性がある。以下、竪穴建物の時期及び切り合い関係が著しい遺構は概ね古墳時代から古代と考えられ、埋土は褐灰色をベースとなる。

今回の調査で古墳時代から近世にかけての遺構・遺物を確認した。遺構面は現地表面から約30～40cmで確認し、暗褐色極細砂を基盤として遺構が形成される。遺構の切り合い関係が著しく複数期にわたって遺構が形成されたと考えられる。遺構面上や遺構から出土した土器が古代を中心とするものであることから、古代の中で複数期にわたる可能性がある。遺構掘削が限定的であるため確証はないが、切り合いの古いものは古墳時代に遡る可能性もある。よって、埋土の色調と時期の特徴は褐灰色は古墳時代から古代、黒褐色～黒色は古代であり、灰白色～灰黄褐色は中世から近世と推測される。

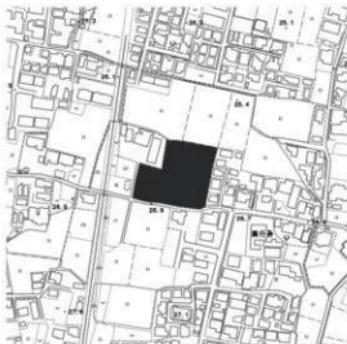
対象地の大半が多肥廃寺内に位置するが、基壇や礎石の据え付け等の寺院の中心伽藍に関する痕跡は明瞭に確認できなかった。しかし、古代瓦が出土し、古代のピットを複数確認していることから、周辺に古代寺院やその関連施設が存在した可能性が高い。また、近隣に所在する多肥北原西遺跡の調査報告(香川県教委2015)でも対象地周辺に寺院の関連施設が存在する可能性を指摘されている。今回の調査は時期や立地、香川県教育委員会の調査成果を加味すると多肥廃寺に関連した施設である可能性がある。

6 まとめ

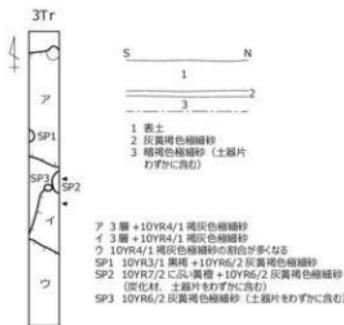
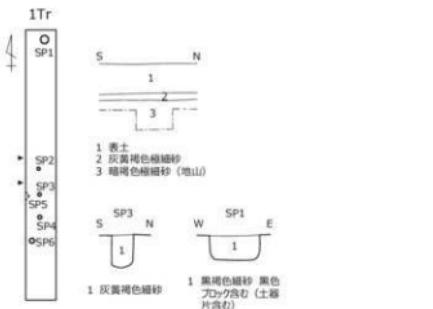
今回の試掘・確認調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。対象地の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥廃寺」の隣接地である。今回の調査成果を考慮し、周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥廃寺」として追加登録し、今後、土木工事等の開発工事が実施される際は、適切な保護措置が必要と考えられる。(香川)

(参考文献)

香川県教育委員会 2015『多肥北原西遺跡』



第16図 調査位置図 (1/5,000)



第17図 トレーンチ平・断面図、出土遺物実測図 (1/200・1/40・1/4)

15. 条里跡

- 1 所 在 地 高松市香南町由佐
- 2 調 査 期 間 令和3年4月 26日
- 3 調 査 担 当 者 品川 愛
- 4 調 査 の 原 因 住宅建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」に位置する。調査の結果、地山と考えられる黄色シルト層において近世遺構の掘り込みが確認された他は、遺構・遺物は確認されなかった。

6 まとめ

今回の調査で対象地についての埋蔵文化財の保護措置を完了した。(品川)



第18図 調査位置図(1/5,000)

16. 中塚遺跡・西植田町中塚地区

- 1 所 在 地 高松市西植田町
- 2 調 査 期 間 令和3年5月 28日～5月 31日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶・森原 奈々
- 4 調 査 の 原 因 遊戯施設建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地の一部は、周知の埋蔵文化財包蔵地「中塚遺跡」の範囲内に位置し、事業に先立ち試掘・確認調査を実施した。I層は現代造成土、II層は旧耕作土と客土、III層は灰黄褐色粗砂～中粒砂、IV層は黄褐色シルトの地山である。このうち、III層は3トレンチ西側で観察できた土層で層相の観察から河川氾濫を起源とする自然堆積層、IV層は地山と考えられる。

調査では、4トレンチのII層上面で溝を検出し、近現代に帰属する遺物が出土した。3トレンチではIII層上面で炭化物の広がりと、溝(SD 01)1条と壁面で柱穴2基を検出した。この溝からは、古代に帰属する土師器甕(1・2)が出土した。また、遺構の基盤層であるIII層から弥生時代後期に帰属する鉢・甕(3・4)が出土した。

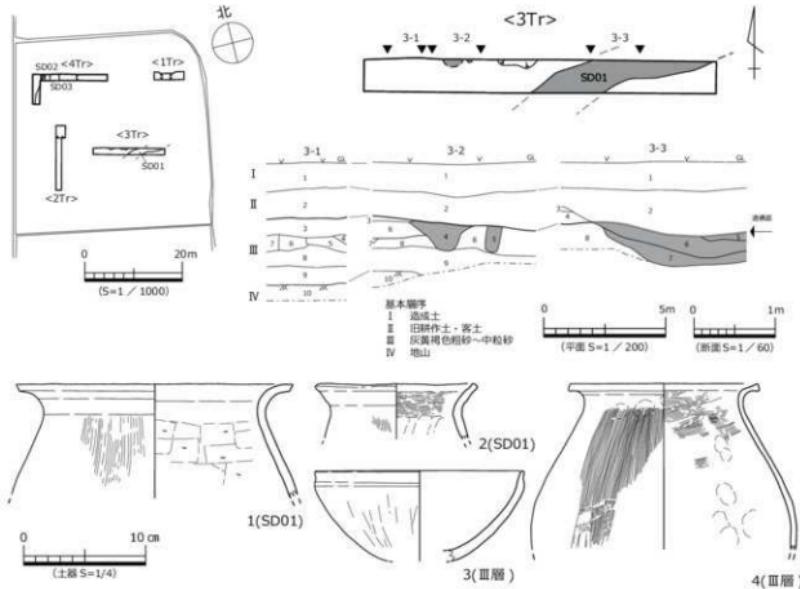
6 まとめ

今回の調査では、3トレンチで中世以前に属する埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。北側と東側に隣接する中塚遺跡との地形の連続性や出土遺物の帰属時期等の類似性を指摘できることから、同遺跡の集落に伴う遺構・遺物と考えられる。

調査の結果を受けて、対象地全域は周知の埋蔵文化財包蔵地「中塚遺跡」として追加登録された。当該工事については、工事立会を行い保護措置は完了した。(森原)



第19図 調査位置図(1/5,000)



第20図 トレンチ平・断面図、出土遺物実測図 (1/200・1/60、1/4)

17. 太田下町中下所地区

- 1 所 在 地 高松市太田下町
- 2 調 査 期 間 令和3年6月11日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 保育園建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田下・須川遺跡」に隣接する。事業者から令和2年6月7日付けで試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。なお、対象地内には仮設の事務所及びフェンス等が所在し、地表は駐車場としてアスファルト舗装されていた。これら既設物への影響を考慮し、調査可能範囲で試掘調査を実施した。調査に当たっては1本のトレンチを設定した。アスファルト及び造成の花崗土下に、遺構面を確認した。遺構面は黒色系統の粗砂混じリシルト層で、近隣の調査でも遺構面として確認されている層に相当する。また、この遺構面中には遺物が比較的多く含まれており、遺物包含層としての性格も有する。

検出した遺構は、調査範囲が狭小であったため性格不明が2基(SX 1・2)である。溝や豊穴建物の可能性が想定できる。遺物包含層からは弥生土器と想定できる土器片が出土しており、遺構埋土中からも弥生土器と考えられる遺物が出土した。このため、検出した遺構は弥生時代以降の年代を想定することが適当であろう。ただし時期の詳細を限定する資料には恵まれなかった。なお、重機掘削中に古代の須恵器片も確認しており、この時期の遺構・遺物が確認できる可能性もある。

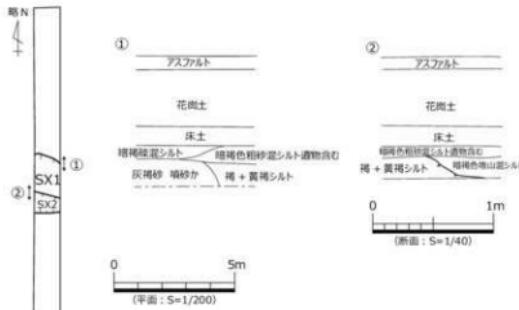
遺物包含層=遺構面のさらに下層には、褐色+黄色の混和したシルト層を確認し、地山と判断した。この地山層は、隣接地では遺構面として把握されている層である。今回の調査では範囲が狭小であったため遺構・遺物を確認できなかつたが、連続する遺構面として把握できる可能性は残されており、注意が必要である。



第21図 調査位置図 (1/5,000)

6まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地と認められることがから、今後適切な保護措置が必要である。包蔵地名は、隣接する遺跡と連続する遺跡と考えられるため、「太田下・須川遺跡」とした。開発工事に先立ち文化財保護法第93条の届出があり、工事立会を実施して本工事における保護措置は完了した。(高上)



第22図 トレンチ平・断面図 (1/200、1/40)

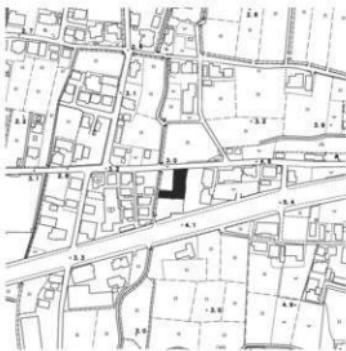
18. 新田町本村地区

- 所在地 高松市新田町
- 調査期間 令和3年6月24日
- 調査担当者 佐藤 容・上原 ふみ
- 調査の原因 宅地造成・建築工事
- 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「新田本村遺跡」の北側に隣接する。「新田本村遺跡」では、平成30年度に2回確認調査を実施している。その際、黒褐色シルト層(1層)から古代の土器片が出土し、灰褐色中粒砂混シルト層(2層)で古代以前の遺構が検出された。今回の調査でも同様の層が見られ、南側では1層から古代の土器片・須恵器片が出土したほか、2層上面の不明遺構からは古代の土器片が出土した。

6まとめ

今回の試掘調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「新田本村遺跡」として追加登録した。建築工事に先立ち文化財保護法第93条の届出があり、工事立会の伝達を行った。工事立会を実施し、本工事における保護措置は完了した。(佐藤)



第23図 調査位置図 (1/5,000)

19. 飯田町東青木地区

- 所在地 高松市飯田町
- 調査期間 令和3年7月12日
- 調査担当者 品川 愛
- 調査の原因 宅地造成工事
- 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「青木5号塚」に隣接する。塚の周囲を囲うようにトレンチを設定し調査を行ったが、中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。

6まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第24図 調査位置図 (1/5,000)

たひしもまちひらつかちく 20. 多肥下町平塚地区

- 1 所 在 地 高松市多肥下町
2 調 査 期 間 令和3年7月13日
3 調 査 担 当 者 高上 拓
4 調 査 の 原 因 朝日町仏生山線道路整備工事（墓地代替移転地）

5 調 査 の 概 要

対象地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの協力を受け、試掘調査を実施した。調査に当たっては、東西方向、南北方向にそれぞれ1本ずつのトレンチを配置した。東西トレントンチでは、東西方向に延びる溝を確認した。埋土は灰黄色シルトを基調とする。基盤層は円礫混じり灰黒色砂層である。遺物は確認できず、形成時期が不明であるが、周辺の調査で近世以降の埋土として類似した土質のものが認められることから、近世以降に埋没した遺構の可能性が高い。南北トレントンチでは遺構・遺物ともに確認できなかった。

6 ま と め

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）

むれちょうおかちく 21. 卯礼町岡地区

- 1 所 在 地 高松市卯礼町卯礼
2 調 査 期 間 令和3年7月14日～7月16日
3 調 査 担 当 者 品川 愛・上原 ふみ
4 調 査 の 原 因 幼保一体化施設建設事業
5 調 査 の 概 要

対象地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの協力を受け、試掘調査を実施した。

試掘調査の結果、対象地の基本層序は、I層（床土・甘土・花崗土）、II層（灰色シルト層）、III層（黒色シルト層、黒褐色細粒砂まじりシルト層）、IV層（地山：黄色シルト層、黄色粗砂まじリシルト層、黒色シルト層）であることが明らかになった。

III層（黒色シルト層）は2、6、9、12トレントンチで面的に確認された。層中からは弥生土器が多量に出土しており、遺物包含層あるいは大型の遺構であると考えられる。また、IV層上面では溝、ピット、土坑等の遺構が確認され、10トレントンチの溝では弥生土器が出土した。

弥 生 土 器

Iは10トレントンチ溝、2～7は12トレントンチ黒色シルト層から出土した。Iは長頸壺である。体部は梢円形を呈する。頸部は直線的に伸び、口縁部で強く外反する。口縁端部は若干摘み上げられている。頸部外面には櫛描斜線文が施される。2～5は甕である。2、3はく字形口縁の甕であり、胎土に黒色粒を多量に含む。2は体部が砲弾形、底部は平底を呈する。3も2と類似した器形である。肩部外面に粘土の接合痕を残し、口縁部外面には粘土の残余がみられるなど、粗雑な印象を受ける。4、5は香東川下流域産土器の甕と類似した器形であるが、胎土中に黒色粒はみられない。4は頸部外面に指頭圧痕がみられ、香東川下流域産土器の調整方法とは異なる。香東川下流域産土器の模倣品である可能性がある。6は製塩土器であ



第25図 調査位置図 (1/5,000)



第26図 調査位置図 (1/5,000)



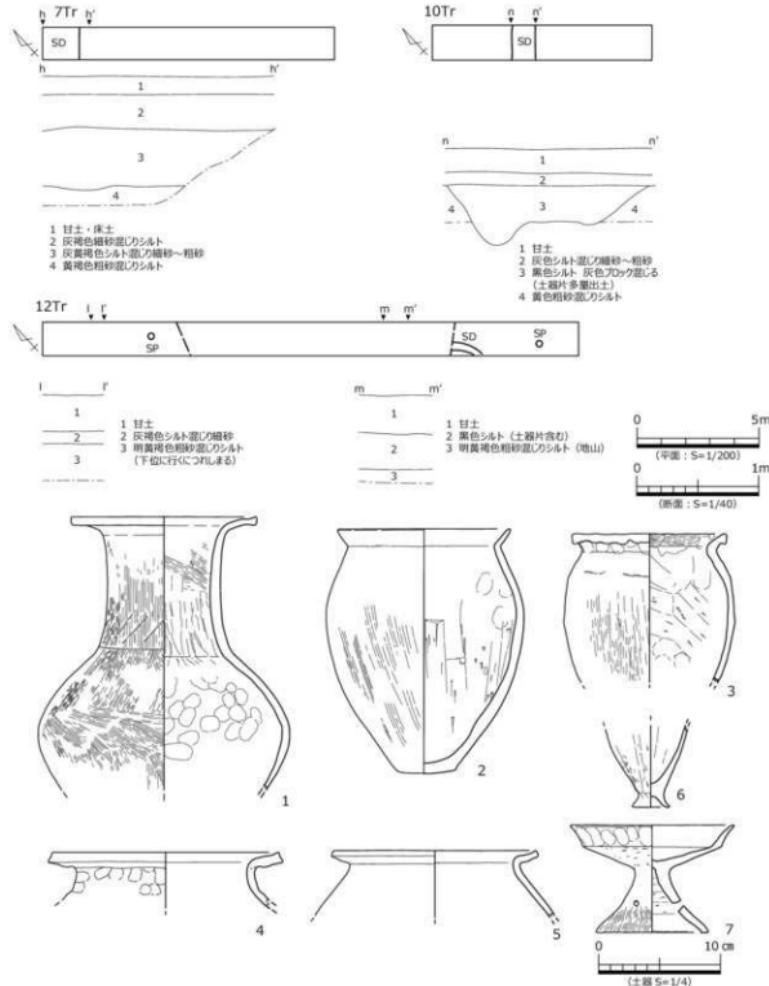
第27図 トレントンチ配置図 (1/1000)

り、2、3と同様の胎土で製作される。ハ字形に小さく広がる脚部を有する。7は高坏である。坏部は浅く、脚部はハ字形に広がる。胎土には白色粒をまばらに含む。脚部端部内面に粘土の残余がみられる。

長頸壺口縁部、高坏坏部の形態から時期は弥生時代後期中葉と考えられる。

6まとめ

試掘調査の結果、対象地全域で埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「岡遺跡」として新規登録した。(品川)



第28図 トレンチ平・断面図、出土遺物実測図 (1/200, 1/40・1/4)

22. 六条町六条下所地区

- 1 所 在 地 高松市六条町
- 2 調 査 期 間 令和3年7月 20日～7月 21日
- 3 調 査 担 当 者 品川 愛
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「六条下所遺跡」「空港跡地遺跡」に隣接する。

試掘調査の結果、対象地の基本層序は、Ⅰ層（床土・甘土）、Ⅱ層（黒色シルト層）、Ⅲ層（黄色シルト層）であり、Ⅲ層上面において遺構が確認された。

3トレンチではⅢ層上面で溝が検出され、古墳時代のものと考えられる土師器甕が出土した。溝の埋土は褐色シルト層である。また、1、4、7、8トレンチにおいても溝を検出した。溝の埋土は3トレンチの溝と同質であったことから、同時期のものであると考えられる。

6まとめ

対象地全域で埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「六条下所遺跡」として追加登録した。（品川）



第29図 調査地位置図 (1/5,000)

23. 香南町横井地区

- 1 所 在 地 高松市香南町横井
- 2 調 査 期 間 令和3年7月 26日～7月 27日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 香南小学校校舎改築工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの協力を受け、試掘調査を実施した。調査に当たっては、校舎建設予定地、補助プール建設予定地にそれぞれ1本ずつのトレンチを配置した。なお、校舎トレンチについては、既設管等を回避するため、中途で何度も掘削を断続しており、結果4か所のトレンチ状に掘削した。校舎トレンチでは、花崗土・造成土の下面で地山と考えられる風化粘土層を広く確認した。遺構・遺物は確認できなかった。現地はグラウンドとして整備されており、造成時等に旧地形を削平して現況を形成した可能性が考えられる。

補助プールトレンチでは、海砂を敷き詰めた下面に、布で巻いた単粒碎石が敷き詰められており、部分的に地山を確認したが壁面の崩落が顕著で掘削を断念した。上記の海砂や碎石は現地表面から0.9m以上の深度が確認できたため、こちらも過去に既に削平された可能性が高い。

6まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）



第30図 調査地位置図 (1/5,000)

じょうりあと 24. 条里跡

- 1 所 在 地 高松市香南町由佐
- 2 調 査 期 間 令和3年7月 28日
- 3 調 査 担 当 者 高上 拓
- 4 調 査 の 原 因 住宅建築工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。事業者から令和2年7月20日付けで確認調査の依頼を受け、調査を実施した。調査に当たっては3本のトレントを設定した。I~3トレントすべての箇所で、造成土直下で地山層を確認した。地山は明黄褐色の粘土である。現代の擾乱は複数個所で確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。

6まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地であるが、今回の調査で必要な保護措置は完了した。(高上)



第31図 調査位置図（1/5,000）

じょうりあと 25. 条里跡

- 1 所 在 地 高松市香南町由佐
- 2 調 査 期 間 令和3年7月 29日~7月 30日
- 3 調 査 担 当 者 品川 愛
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」に位置する。対象地の基本層序は、I層(床土)、II層(褐色ブロック混じり黄色シルト層)、III層(黄色シルト層または黄色細粒砂混じりシルト層)であり、III層上面で遺構を検出した。2トレントで検出したSK Iからは13~14世紀の須恵器碗が出土した。SK Iの埋土は灰白色シルト層である。他のトレントの遺構埋土についても、SK Iと類似しており、同時期のものである可能性が高いと考えられる。

6まとめ

確認調査の結果、対象地全域で埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。(品川)



第32図 調査位置図（1/5,000）

なかもりいせき だんしちょうなかもりちく 26. 中森遺跡・檀紙町中森地区

- 1 所 在 地 高松市檀紙町
- 2 調 査 期 間 令和3年8月 25日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶
- 4 調 査 の 原 因 美容室建設工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「中森遺跡」内に位置するとともに、同包蔵地に隣接する。事業者より依頼があり、試掘・確認調査を実施した。

今回の調査はトレント2本を設定した。調査の結果、約1.5m~2m掘削したが、盛土や地盤改良により削平されていることが明らかになり、遺構・遺物は確認できなかった。

6まとめ

今回の試掘・確認調査では遺構・遺物は確認できなかった。本調査をもって対象地の保護措置は完了した。(香川)



第33図 調査位置図（1/5,000）

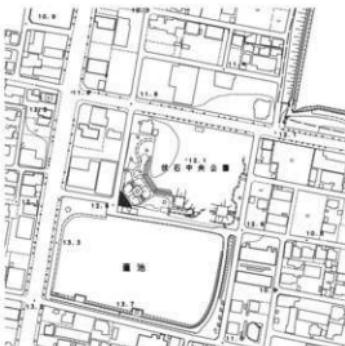
27. 伏石町麿紋胴地区

- 1 所 在 地 高松市伏石町
- 2 調 査 期 間 令和3年8月26日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶
- 4 調 査 の 原 因 配水管布設工事
- 5 調 査 の 概 要

事業者から依頼があり、試掘調査を実施した。今回の調査はトレーナー本を設定した。現地表面から約130cmの位置で蓮池等に関連するものと推測される暗褐色細砂～極細砂（礫を多量に含む）を確認した。検出した結果、遺構・遺物は確認できなかった。

6 まとめ

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（香川）



第34図 調査位置図 (1/5,000)

28. 池の内遺跡Ⅰ・多肥上町日暮地区

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
- 2 調 査 期 間 令和3年8月27日
- 3 調 査 担 当 者 佐藤 容・上原 ふみ
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「池の内遺跡Ⅰ」内、及びこれに隣接する。調査では、包蔵地内に位置している東端にトレーナーを一本設定した。基本土層は床土直下から、包含層、黒褐色粘土層、黄褐色シルト質粘土層（褐灰色混）が堆積していた。精査は地山層と考えられる黒褐色粘土層上面で行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

6 まとめ

今回の試掘・確認調査では遺構・遺物は確認できなかった。本調査をもって対象地の保護措置は完了した。（佐藤）



第35図 調査位置図 (1/5,000)

29. 多肥上町前邸地区

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
- 2 調 査 期 間 令和3年9月16日
- 3 調 査 担 当 者 佐藤 容・上原 ふみ
- 4 調 査 の 原 因 戸建住宅新築工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天満宮古墳」の西側に隣接する。調査では、天満宮古墳の周溝を想定して東西方向にトレーナーを3本設定した。基本土層は地表面から、花崗土・旧耕作土（1層）、にぶい赤褐色シルト質極細砂層（2層）、黒褐色シルト混じり粗砂層（3層）が堆積している。3層は礫石を多く含む層で、地山と考えられる。わずかに土師器片は出土したが、遺構は検出されなかった。

6 まとめ

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（佐藤）



第36図 調査位置図 (1/5,000)

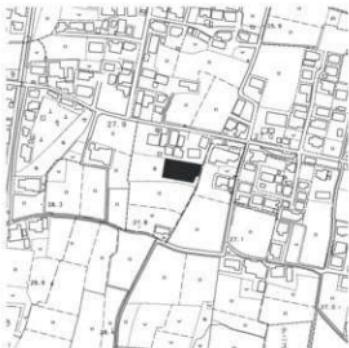
たひかみまちみなみはらちく 30. 多肥上町南原地区

- 1 所 在 地 高松市多肥上町
- 2 調 査 期 間 令和3年9月21日
- 3 調 査 担 当 者 品川 愛
- 4 調 査 の 原 因 宅地造成工事
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「西久保遺跡」に隣接する。対象地の基本層序は、I層(甘土)、II層(黄橙色～灰色細砂層)、III層(灰色砂礫層)、IV層(地山)であり、II、III層は土師器、近世陶器、瓦片などを含む遺物包含層であった。また、2トレンチIV層上面及び3トレンチIII層上面で近世以降と考えられる礫だまりを検出した。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(品川)



第37図 調査位置図 (1/5,000)

かわしまひがしまちごうちく 31. 川島東町郷地区

- 1 所 在 地 高松市川島東町
- 2 調 査 期 間 令和3年11月2日
- 3 調 査 担 当 者 佐藤 容・中西 克也
- 4 調 査 の 原 因 土地売却
- 5 調 査 の 概 要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「川島郷遺跡」の隣接地である。対象地の西側・東側では既に発掘調査が実施されており(「高松市埋蔵文化財調査報告第216集 川島郷遺跡」2021)、西側の調査区で東西に延びる弥生～古墳時代の溝跡が検出されている。

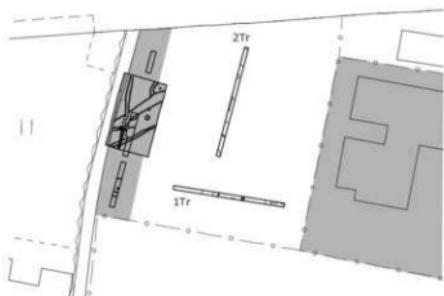
調査ではトレンチ2本を設定した。1トレンチでは、近世のピットと細い溝、また西側で大型の溝を検出した。時期は不明だが、西側調査地区的溝に関連すると推測される。2トレンチでは、溝と土坑を検出した。溝の埋土の表面は砂地で場所によって種類が異なるため、複数条が集まっていると推測される。溝の詳細な範囲は不明だが、位置的にはこれも西側調査地区的溝に続くものと推定できる。土坑は溝の上部で検出した。遺物は、土坑中から近世の陶器が、遺構面上面から近世の磁器が出土した。

6 まとめ

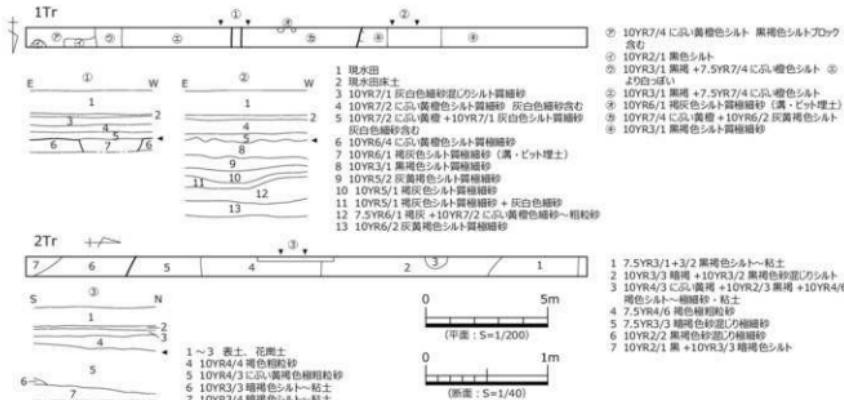
今回の試掘調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「川島郷遺跡」として追加登録した。(佐藤)



第38図 調査位置図 (1/5,000)



第39図 トレンチ配置図 (1/1000)



第40図 トレンチ半・断面図 (1/200, 1/40)

じょうりあと 32. 条里跡

- 所在地 高松市香南町横井
- 調査期間 令和3年11月19日
- 調査担当者 梶原慎司
- 調査の原因 事務所建設工事
- 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、逆L字形に1本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.3~0.6mの深さで灰白色シルト層の地山が認められた。地上面で、中世以前の遺構・遺物は認められなかった。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、中世以前の遺構・遺物は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第41図 調査地位置図 (1/5,000)

じょうりあと 33. 条里跡

- 所在地 高松市香南町由佐
- 調査期間 令和3年11月26日
- 調査担当者 梶原慎司
- 調査の原因 住宅建築工事
- 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査では、1本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.6mの深さで黄褐色シルト層の地山が認められた。地上面で、中世以前の遺構・遺物は認められなかった。

6 まとめ

周知の埋蔵文化財包蔵地内ではあるが、中世以前の遺構・遺物は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第42図 調査地位置図 (1/5,000)

第2章 重要遺跡確認調査（令和2年12月～令和3年11月）

34. 史跡讃岐国分尼寺跡

- 1 所 在 地 高松市国分寺町新居
- 2 調 査 期 間 令和2年12月8日～12月18日
- 3 調 査 担 当 者 香川 将慶・佐藤 容・品川 愛
- 4 調 査 の 原 因 重要遺跡確認調査
- 5 調 査 の 概 要

a 経緯・経過

調査は表土、床土を重機掘削した後に第3・4層を部分的に人力掘削し、土層の堆積状況や遺構の状況を明らかにするためにサブトレーナーを設定して遺構の有無等の確認を行った。

b 調査成果

基本土層はトレーナー東半南断面をみると表土、床土以下で陶磁器を含む灰黄褐色細砂層（第3層）を確認し、トレーナー東端では古代の遺物を含む褐灰色細砂層（第4層）を確認した。第5層が灰黄褐色細砂・極細砂で礫を含んだ硬質な堆積層で地山であり、遺構面と考えられる。また、西半北断面のSD4断面東側では表土直下で地山（第5層）を検出している。また、西端で確認した第4層は、地山である第5層と土質は異なるが、遺物が出土していないため地山と考えられる。

今回の調査では溝4条、性格不明土坑1基を検出した。

東端で検出した性格不明土坑（SX1）は第4層を切込んでいることから古代以降の遺構と考えられる。遺物は出土していない。

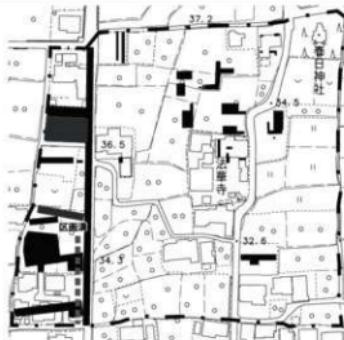
同じく東端で検出したSD2・3は南西から北東方向の溝である。平面観察のみ実施したため掘削を行っていない。SD2・3は第4層と同質の埋土であり、SX1に切られていることから、古代以降でSX1が形成される以前の遺構と考えられる。

東側で検出したSD1は南北方向の溝である。規模は幅約0.7m、深さ約0.3mである。埋土は暗灰黄色シルトで礫が混じる。昭和57年度の調査（第2次調査）で検出した西侧区画溝の延長線上にある。削平されているとも考えられるが、SD1と第2次調査の遺構を比較すると規模・堆積状況とともに西侧区画溝としての評価は難しく、今後の課題としたい。古代以降の堆積層以下の地山面で検出したことから古代以前の遺構と考えられる。

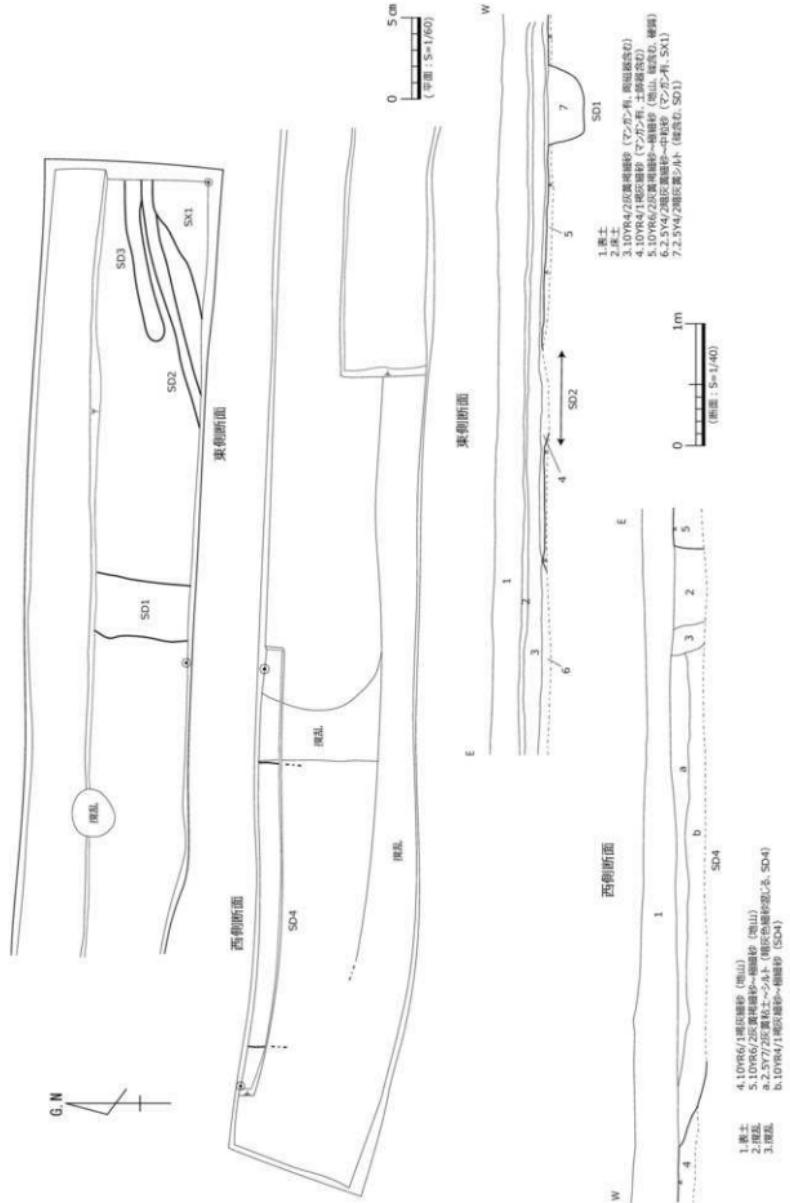
一方、トレーナー西側の表土直下で検出した灰黃粘土・シルト層（SD4第a層）の状況を確認するためサブトレーナーを設定し、土層断面で確認したところ、南北方向の溝であると考えられるSD4（第a・b層）が存在することを確認した。平面観察を基本とした調査であり、掘削は最小限に留めたことや一部擾乱により全容は不明だが、検出した規模は幅約4.1mである。遺物は出土していない。SD4は平成20年度の調査（第9次調査）で確認したSD1と同様に史跡指定地の西端で検出し、検出幅が類似している。

6 ま と め

今回の調査で検出したSD4は第9次調査SD1の延長線上にないが、双方とも史跡指定地の西端で検出しており、関連する遺構である可能性がある。今後、溝の主軸方向や埋没時期等を検証する必要がある。また、昭和57年度調査で確認した溝と本調査で検出したSD1の関連性を含め、寺域西側の区画施設の構造等について引き続き解明する必要がある。（香川）



第43図 調査位置図(1/3,000)



第44図 テンチ平・断面図 (1/60・1/40)

かつがじょうあと 35. 勝賀城跡

- 1 所 在 地 高松市鬼無町
2 調 査 期 間 令和3年1月29日～3月23日
3 調 査 担 当 者 梶原慎司
4 調 査 の 原 因 重要遺跡確認調査
5 調 査 の 概 要

a 経緯・経過

勝賀山頂に所在する勝賀城跡を国史跡に指定することを目的として、平成28年度から調査を開始した。令和2年度は調査5年目に当たり、調査最終年度である。本年度では、主郭に隣接する2つの方形曲輪内にトレンチを設定し、発掘調査を実施した。また、測量調査も実施し、勝賀城跡南西部の測量を完了した。

令和3年2月には第3回勝賀城跡調査会議を開催し、本年度の調査成果を確認した。

b 調査成果

主郭の南側に隣接する方形曲輪内の発掘調査を行った。調査区は、曲輪内全面を対象とした。発掘調査の結果、曲輪内に遺構・遺物は認められなかった。また、地山も平坦には整形しておらず曲輪の中央で傾斜面が認められた。

主郭の北側に隣接する方形曲輪内も発掘調査を行った。この曲輪は、昭和55年度に発掘調査を実施した箇所で、盛土が認められた。盛土の下層で遺構を確認することを目的として曲輪北東部にトレンチを設定し発掘調査を行った。盛土の上面及び下層の地山上面で遺構検出を行ったが、遺構は認められなかった。

6 まとめ

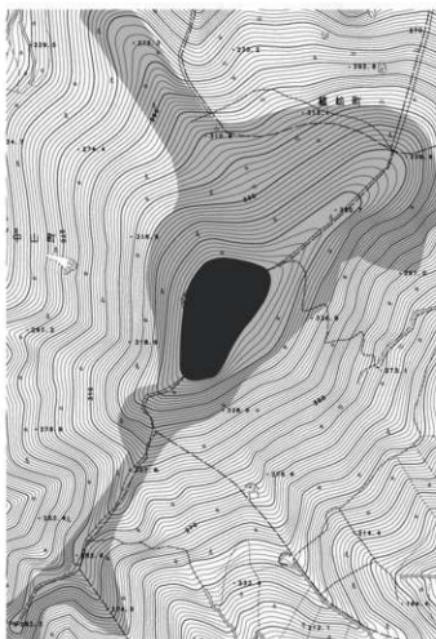
本年度は主郭に隣接する2つの方形曲輪内の発掘調査を行った。来年度は調査報告書を執筆し、令和4年度に報告書を刊行する予定である。(梶原)



写真2 主郭南側曲輪完掘状況



写真3 主郭北側曲輪完掘状況



第45図 調査地位置図 (1/5,000)

とくべつしせきさぬきこくぶんじあと 36. 特別史跡讃岐国分寺跡

1 所 在 地 高松市国分寺町国分

2 調査期間 令和3年10月25日～10月29日

3 調査担当者 香川 将慶

4 調査の原因 重要遺跡確認調査

5 調査の概要

a 経緯・経過

調査は境内に位置するトイレを改修する予定があり、遺構の状況を確認するために実施した調査である。トレーンチは南北方向のトレーンチを既存トイレの東西（計2本）に設定し、調査を実施した。掘削は表土からすべて人力で実施し、既存トイレの基礎範囲や堆積層を確認するため部分的にサブトレーンチを設定し、遺構の有無等を確認した。

b 調査成果

基本土層は1トレーンチと2トレーンチで確認状況が大きく異なる。1トレーンチは表土以下に第2層・第3層を確認し、近世の陶磁器・瓦類が出土したことから、近世～近代にかけての整地層と考えられる。この層は平成23年にトイレの南側で実施した確認調査（第40次調査）と同様の堆積層である。第6層は暗灰黄色の地山である。

2トレーンチは表土以下に第2、3層を確認し、陶磁器や中近世の瓦類が出土したことから、中世～近世の整地層と考えられる。第4～6層は近世の遺物を含まないことから、中世以前の整地層と考えられる。特に第5、6層は古代末頃から中世の遺物を含む整地層でかなり固く締められている。

今回の調査では土坑2基を検出した。

土坑は1トレーンチから表土（現代）除去後に確認した。各土坑から陶磁器や瓦が出土したほか、昭和期のビニールが出土したため、現代の土坑と考えられる。住職の御教示から既存トイレの前身のトイレに関するものと考えられる。現代の土坑であるためこの範囲を地山面まで掘削したが、古代に関する遺構は確認できなかった。

また、2トレーンチでは古代末から中世にかけての整地層を確認した。基本層序でも触れたが、第4～6層がこれに対応する。掘削範囲が狭小であるため確定はできないが、第5、6層はかなり固く締められていることから版築層の可能性もある。

6まとめ

1トレーンチは現代の土坑、近世から近代にかけての整地層を確認したが、古代の国分寺に関する遺構は確認できなかった。現地表面から約85cmまでは表土、近代から近世頃にかけて整地が行われた。トレーンチを設定した位置は既存のトイレと堀の間であり、これらの基礎で遺構が削平された可能性もある。このため、既存トイレより西側については、古代の遺構は削平されたと考えられる。

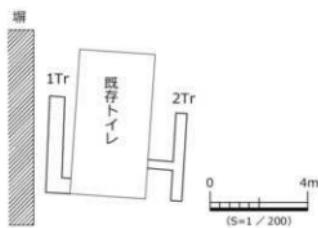
一方、2トレーンチは現地表面から約45cmで近世以前の整地層を確認した。特に、第5・6層は版築層である可能性があり、出土遺物から年代も古代末から中世前半と推測される。国分寺では平安時代後期に僧房をはじめとした改修や鎌倉時代に入り現在の境内に大きく変更を行っている。また、本調査地は東回廊の推定地であることも考慮する必要があるが、遺構の構築時期が上記の年代であるため、創建期の東回廊である可能性は低いと考えられる。これまでの調査で回廊の建て替えや修理等については発掘調査（渡邊 2018）で確認できず、今回の調査が東回廊の平安時代後期以降の改修・変更の跡である可能性について言及できるほどの成果は、調査範囲が狭小であるため得ることはできなかった。遺構の性格は特定できないが版築層と考えられる整地層を確認したことから古代末から中世前半にならかに構造物を建てた可能性が推測できる。今後の調査で構造物の性格について明らかにする必要がある。（香川）

（参考文献）

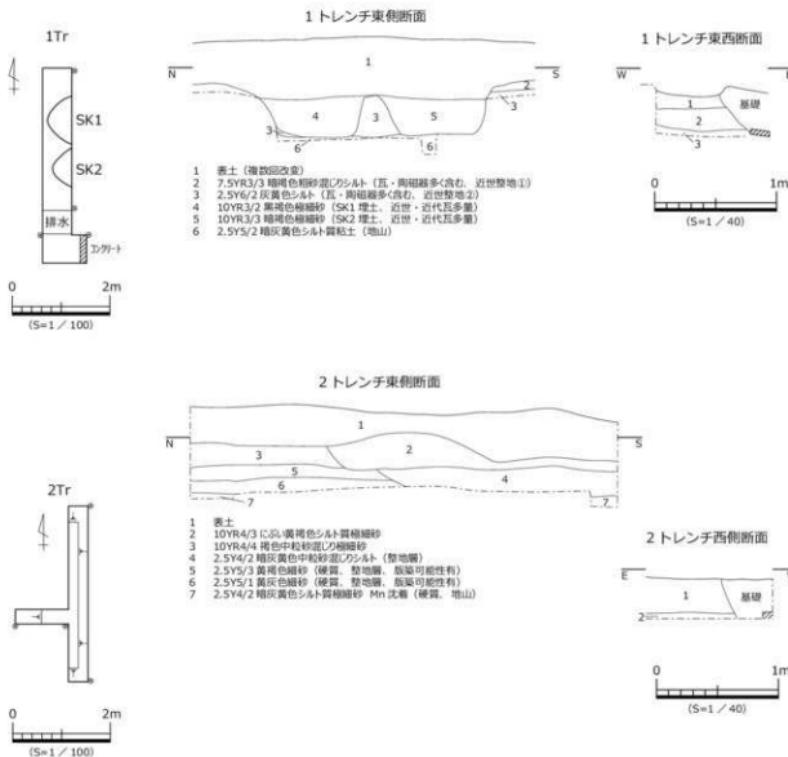
渡邊 誠 2018『特別史跡讃岐国分寺跡 I 遺構編』高松市教育委員会



第46図 調査位置図 (1/5,000)



トレンチ配置図



第47図 トレンチ平・断面図 (1/100, 1/40)

ふりがな		たかまつしないいせきはつくちょうさがいほう							
書名		高松市内遺跡発掘調査概報							
副書名		令和3年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書							
シリーズ名		高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号		第 234 集							
編著者名		高上 拓・香川 将慶・梶原 慎司・佐藤 容・品川 愛・森原 奈々							
編集機関		高松市教育委員会							
所在地		〒 760-8571 香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号 Tel. 087(839)2660							
発行年月日		令和4年3月31日							
所収遺跡名		調査地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 /事業対象面積	調査後の措置
市町村	遺跡番号								
1	佐藤城跡	鬼無町	37201	10878	34°19'38"	133°59'26"	R2.12.2 ~ 12.3	101 / 1820 m ²	包蔵状況確認
2	木太町小原地区	木太町	37201		34°18'54"	134°04'20"	R2.12.9	70 / 750 m ²	包蔵地確認されず
3	条里跡	香南町横井	37201	50017	34°14'45"	134°00'47"	R2.12.14	20 / 20 m ²	包蔵状況確認されず
4	上林町本村地区	上林町	37201		34°17'30"	134°03'59"	R2.12.17	50 / 800 m ²	包蔵地確認されず
5	平石上4号墳・三谷町平石上地区	三谷町	37201	10665	34°16'27"	134°03'57"	R2.12.24 ~ 12.25	10 / 200 m ²	包蔵地確認 範囲変更「平石上4号墳」
6	奥ノ池遺跡	室新町	37201	10468	34°19'22"	134°02'06"	R3.2.18	7 / 50 m ²	包蔵状況確認されず
7	飯田町東青木地区	飯田町	37201		34°19'09"	134°00'23"	R3.2.18 ~ 2.22	135 / 2076 m ²	包蔵地確認されず
8	押師廃寺・上林町本村地区	上林町	37201	10630	34°17'26"	134°03'48"	R3.3.9	50 / 1012 m ²	包蔵状況・包蔵地確認 追加登録「押師廃寺」
9	太田下町須川地区	太田下町	37201	10598	34°18'32"	134°02'56"	R3.3.10	114 / 2323 m ²	包蔵地確認 追加登録「太田下・須川遺跡」
10	条里跡	香南町由佐	37201	50017	34°14'18"	134°01'13"	R3.3.11	39 / 537 m ²	包蔵状況確認されず
11	多肥上町平塚・本村地区	多肥上町	37201		34°17'51"	134°03'04"	R3.3.15 ~ 3.18	200 / 3000 m ²	包蔵地確認されず
12	条里跡	香南町由佐	37201	50017	34°14'27"	134°01'12"	R3.3.19	17 / 461 m ²	包蔵状況確認されず
13	太田城跡	太田上町	37201	10887	34°18'15"	134°02'37"	R3.4.19	30 / 675 m ²	包蔵状況確認
14	多肥廃寺・多肥上町北原地区	多肥上町	37201	10633	34°17'40"	134°02'45"	R3.4.20 ~ 4.23	158 / 3000 m ²	包蔵状況・包蔵地確認 追加登録「多肥廃寺」
15	条里跡	香南町由佐	37201	50017	34°14'38"	134°00'52"	R3.4.26	19 / 182 m ²	包蔵状況確認されず
16	中塚遺跡・西植田町中塚地区	西植田町	37201	10759	34°14'21"	134°04'34"	R3.5.28 ~ 5.31	66 / 1518 m ²	包蔵地確認 追加登録「中塚遺跡」

所収遺跡名	調査地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ／事業対象面積	調査後の措置
		市町村	遺跡番号					
17 太田下町中下所地区	太田下町	37201	10598	34° 18'34"	134° 02'46"	R3.6.11	15 / 367 m ²	包蔵地確認 追加登録「太田下・須川遺跡」
18 新田町本村地区	新田町	37201	10813	34° 19'32"	134° 06'09"	R3.6.24	31 / 727 m ²	包蔵地確認 追加登録「新田本村遺跡」
19 飯田町東青木地区	飯田町	37201		34° 19'08"	134° 00'23"	R3.7.12	16 / 581 m ²	包蔵地確認されず
20 多肥下町平塚地区	多肥下町	37201		34° 17'50"	134° 03'05"	R3.7.13	30 / 434 m ²	包蔵地確認されず
21 牟礼町岡地区	牟礼町 牟礼	37201	30033	34° 20'40"	134° 08'14"	R3.7.14 ~ 7.16	147 / 2518 m ²	包蔵地確認 新規登録「岡遺跡」
22 六条町六条下所地区	六条町	37201	10986	34° 17'43"	134° 04'43"	R3.7.20 ~ 7.21	117 / 2645 m ²	包蔵地確認 追加登録「六条下所遺跡」
23 香南町横井地区	香南町 横井	37201		34° 14'35"	134° 00'30"	R3.7.26 ~ 7.27	60 / 3600 m ²	包蔵地確認されず
24 条里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14'43"	134° 00'54"	R3.7.28	30 / 273 m ²	包蔵状況確認されず
25 条里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14'20"	134° 01'02"	R3.7.29 ~ 7.30	80 / 1996 m ²	包蔵状況確認
26 中森遺跡・檀紙町 中森地区	檀紙町	37201	10847	34° 18'23"	134° 00'15"	R3.8.25	20 / 639 m ²	包蔵地確認されず
27 伏石町麿紋洞地区	伏石町	37201		34° 18'48"	134° 03'17"	R3.8.26	5 / 70 m ²	包蔵地確認されず
28 池の内遺跡 I・多 肥上町日暮地区	多肥上町	37201	10627	34° 17'47"	134° 03'42"	R3.8.27	9 / 1233 m ²	包蔵地確認されず
29 多肥上町前邸地区	多肥上町	37201		34° 17'10"	134° 03'11"	R3.9.16	12 / 162 m ²	包蔵地確認されず
30 多肥上町南原地区	多肥上町	37201		34° 17'29"	134° 02'47"	R3.9.21	34 / 796 m ²	包蔵地確認されず
31 川島東町郷地区	川島東町	37201	11002	34° 16'37"	134° 05'29"	R3.11.2	37 / 1497 m ²	包蔵地確認 追加登録「川島郷遺跡」
32 条里跡	香南町 横井	37201	50017	34° 14'43"	134° 00'40"	R3.11.19	55 / 2205 m ²	包蔵状況確認されず
33 条里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14'30"	134° 00'40"	R3.11.26	17 / 71 m ²	包蔵状況確認されず
34 史跡讃岐国分尼寺 跡	国分寺町 新居	37201	70050	34° 18'36"	133° 57'47"	R2.12.8 ~ 12.18	44 m ²	重要遺跡確認調査
35 勝賀城跡	鬼無町	37201	10042	34° 20'23"	133° 58'48"	R3.1.29 ~ 3.23	190 m ²	重要遺跡確認調査
36 特別史跡讃岐国分 寺跡	国分寺町 国分	37201	70001	34° 18'09"	133° 56'41"	R3.10.26 ~ 10.29	4 m ²	重要遺跡確認調査

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	佐藤城跡	城館跡	弥生・中世	土坑、柱穴、溝	弥生土器・土師質土器片
2	木太町小原地区	—	—	—	—
3	条里跡	—	—	—	—
4	上林町本村地区	—	—	—	土師器・須恵器片
5	平石上4号墳・三谷町平石上地区	古墳	古墳	マウンド、石組、藏骨器	土師器・須恵器片
6	奥ノ池遺跡	—	—	—	—
7	飯田町東青木地区	—	不明	溝、土坑	土器片
8	拝師廃寺・上林町本村地区	集落跡・社寺跡	古代	土坑、性格不明遺構	土師器・須恵器片・瓦
9	太田下町須川地区	集落跡	弥生・古墳	溝、不明遺構、流路跡	弥生土器片・石器
10	条里跡	条里跡	近世以降	溝	須恵器片
11	多肥上町平塚・本村地区	—	—	—	土師器・須恵器片
12	条里跡	条里跡	—	—	—
13	太田城跡	城館跡	中世・近世	土坑、ピット、溝、井戸	土器・陶磁器片
14	多肥廃寺・多肥上町北原地区	社寺跡	古墳・古代・中世・近世	竪穴建物、溝、土坑、ピット	須恵器・土師器片・古代瓦
15	条里跡	—	不明・近世	土坑	陶器片
16	中塚遺跡・西植田町中塚地区	散布地・集落跡	弥生・古代・近現代	溝、柱穴	弥生土器・土師器・瓦・陶器片・ガラス瓶
17	太田下町中下所地区	集落跡	弥生	溝?、竪穴建物?	土師器・須恵器・弥生土器片・石器
18	新田町本村地区	集落跡	古代	不明遺構	土師器・須恵器片
19	飯田町東青木地区	—	近世	—	近世陶磁器片

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
20	多肥下町平塚地区	—	不明	溝	—
21	牟礼町岡地区	集落跡	弥生	土坑、ピット、溝	弥生土器・陶磁器片・石製品
22	六条町六条下所地区	集落跡	古墳	溝	土師器片
23	香南町横井地区	—	—	—	—
24	条里跡	条里跡	—	—	—
25	条里跡	集落跡	中世	溝、土坑、ピット	土師器・須恵器片
26	中森遺跡・檜紙町中森地区	—	—	—	—
27	伏石町麿紋洞地区	—	—	—	—
28	池の内遺跡Ⅰ・多肥上町日暮地区	—	—	—	—
29	多肥上町前郷地区	—	—	—	土師器片
30	多肥上町南原地区	—	近世以降	ピット、碌だまり	瓦・土師器・陶器片等
31	川島東町郷地区	集落跡	弥生～古墳・近世	溝、土坑、ピット	土器・陶磁器片
32	条里跡	条里跡	—	—	—
33	条里跡	条里跡	—	—	土師質土器片
34	史跡讃岐国分尼寺跡	社寺跡	古代以降・古代以前	溝、性格不明土坑	土師器・陶磁器片
35	勝賀城跡	城館跡	中世	方形曲輪	土師質土器片・石器
36	特別史跡讃岐国分寺跡	社寺跡	現代・近世～近代・古代末～中世	土坑、整地層	陶磁器片・古代瓦・近代瓦

高松市埋蔵文化財調査報告第 234 集

高松市内遺跡発掘調査概報

– 令和 3 年度国庫補助事業 –

令和 4 年 3 月 31 日 発行

編 集 / 発 行 高松市教育委員会

高松市番町一丁目 8 番 15 号

印 刷 (株)成光社

